

取組：県内各地域の実態に応じて、学校種の垣根を越えて連携を深め、英語担当教員の「授業力」を強化する

当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

- 【課題 1】 目的・場面・状況に応じた言語活動が不十分
- 【課題 2】 小中高の指導法の系統性・一貫性の確保が不十分
- 【課題 3】 教師自身の英語力への不安

<原因>

- ・自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を中心とした授業の在り方についての理解不足。
- ・学習到達目標（CAN-DOリスト）の十分かつ効果的な活用ができていない。小中高でより系統的な授業を展開していくための教師の意識改革が不十分。
- ・教師自らの英語力を磨いていく時間の確保が困難。特に小学校の教師は、英語指導の経験がまだまだ少ない。

Plan

■取組計画

学習指導要領の趣旨を具現化できるよう、1人1台端末をはじめとするICT機器を効果的に活用した質の高い授業改善を推進し、英語担当教員の指導力及び児童生徒の英語の活用力の向上を図る。

■体制

大学や民間英会話教室、県・教育事務所・市町教育委員会、小・中・高等学校等と各事業ごとに連携。より質の高い実践となるよう、協議しながら各事業を実施。

Do

■小中高及び民間との連携による英語授業改善推進事業

- 「英語教育推進リーダー」による授業実践を動画で配信
 - ・ICT機器を効果的に活用したり、小中高等学校が連携を図ったりしながら行う授業を実践し、その様子を動画で配信
- 「英語授業改善推進連絡協議会」の実施
 - ・英語教育推進リーダー同士の連携を深める
 - ・授業研究について、より質の高い実践となるよう協議
- 民間英語教育事業者との連携による「英語授業改善研修」
 - ・授業における教師の英語使用や指導法についての講義・演習
 - ・民間ならではのノウハウを公立学校に生かした授業改善
 - ・全3回シリーズの研修を、全てオンラインで実施

■英語授業力ブラッシュアップ研究協議会

学習指導要領の趣旨を踏まえた効果的かつ多様な指導方法について研究・協議・実践し、今求められる英語の授業改善について提言

- 委員 県内各地域の中核となる教員 小：計90人、中：計109人
- 内容
 - ・分科会（小中合同）別研究協議・公開授業
 - 地域別に38分科会を編制。指導主事による指導・助言
 - 各地域に委員を置き、地域の実態に応じた多種多様な実践を発信
 - ・実践事例集の作成・共有
 - 授業改善のポイント、単元目標・評価規準・指導計画、公開授業の内容、成果と課題等をまとめた実践事例集を作成
 - 「愛媛学びの森」学習支援サイトに掲載し、情報共有
- 実施方式 参集・オンラインを併用

Check

■令和3年度英語教育実施状況調査より

- 児童生徒の授業における英語による言語活動時間の割合について
 - 目標 80.0% → 結果（小）90.7%（中）71.2%
- 中学校英語担当教員の授業における英語使用状況について
 - 目標 75.0% → 結果 69.1%
- 英語教育に関する小中連携の状況について
 - 目標 100.0% → 結果 97.7%
- 求められる英語力を有する中学3年生の割合について
 - 目標 50.0% → 結果 46.7%

■各種研究協議会及び研修会におけるアンケート結果より

- 教師自身の英語での発話・やり取りなどへの不安の軽減について
 - 肯定的な回答をした教師の割合
 - 目標 90.0% → 結果（小）79.5%（中）77.9%
- 英語授業の改善に向けた教師の意欲について
 - 肯定的な回答をした教師の割合
 - 目標 90.0% → 結果 98.5%

Action

■「単元指導計画」の構想の仕方の研究

言語活動を中心に据えた指導計画を構想することに焦点を当てる。特に中学校の授業改善をより一層進める。（「英語授業力ブラッシュアップ研究協議会」の内容の充実）

■英語教育推進リーダーによる授業動画の作成・配信

今年度とは別の授業者による実践で、より多種多様な事例を紹介。（「英語授業改善推進連絡協議会」の内容の充実）

■英語担当教員の授業における英語運用能力の更なる向上

言語活動を中心に据えた授業の更なる充実を図るための講座内容に。（「英語授業改善研修」の内容の再検討）

成果の普及

■「愛媛学びの森」学習支援サイト（県内教員が閲覧可能）に掲載

- 授業動画及び添付資料
- 公開授業実践事例集